

野球の投手指導における熟達指導者と未熟達指導者の状況認知

鶴瀬亮一¹⁾、大矢真史²⁾、内山渉³⁾、西原康行¹⁾

1) 新潟医療福祉大学 健康スポーツ学科

2) 新潟医療福祉大学 学務部

3) 新潟総合学園 e ラーニング推進室

【背景・目的】 大学野球の部員数は近年増加を続け、1チーム当たりの平均部員数は約 76 名である(全日本大学野球連盟 2020)。N 大学硬式野球部も部員数が 180 名を超えているが、半数近くが保健体育科教員免許状を取得し、将来部活動等において野球の指導現場に立つことを希望している。一方で、近年の教員採用数の減少により、中学校や高校の現場において野球指導者の不足が深刻化している(朝日新聞 2017)。さらに、部活動時間短縮の社会的な背景や働き方に対する意識変化なども重なって、指導者のコーチングについては、その質的な向上がより一層求められる。

野球競技において、勝利に近づくための要因は多数あるが、特に投手の出来がその勝敗の鍵を握ると言われており、投手の育成は全てのチームにとって重要な課題である。本研究では、そうした投手指導に長けた指導者の育成を目指す第一歩として、投手指導における熟達指導者と未熟達指導者の状況認知について比較、検討することを目的とした。なお、本研究の最終課題は、投手指導における熟達指導者が有する知見を次代の指導者へ伝承するためのシステムを構築することである。

【方法】 被験者は以下の 2 名であった。熟達指導者は競技歴 31 年、投手コーチ歴 7 年の N 大学硬式野球部投手コーチであった。未熟達指導者は競技歴 14 年、学生コーチとしての投手コーチ歴 1 年半の N 大学硬式野球部 4 年生であった。iPad Pro を使用し、投手の投球動画をブルペンにて通常速度とスロー速度の 2 種類撮影した。後日、両被験者に録音機能付きハンズフリーマイクを装着して、撮影した動画を 65 インチ 4K テレビで視聴してもらいながら、投球動作について感じたことを自由に語ってもらった。動画中の投手はリーグ戦でも登板経験のある 1 軍投手であった。そこから得られた状況認知を熟達指導者と未熟達指導者、通常速度とスロー速度で比較、検討した。なお、本研究は新潟医療福祉大学倫理委員会の承認を受け、関連する利益相反はない。

【結果】 状況認知の回数は熟達指導者の通常速度動画で 4 回、スロー速度動画で 5 回、未熟達指導者の通常速度動画で 3 回、スロー速度動画で 3 回であった。また、状況認知の内容は熟達指導者の通常速度動画では良い指摘が 3 か所、悪い指摘が 1 か所、未熟達指導者では良い指摘が 0



写真 1. 実験の様子

か所、悪い指摘が 3 か所であった。熟達指導者のスロー速度動画においては、良い指摘が 4 か所、悪い指摘が 1 か所、未熟達指導者では良い指摘が 0 か所、悪い指摘が 3 か所であった。さらに、熟達指導者は通常速度とスロー速度動画で計 9 回の状況認知を行なっているが、その際指摘した技術的ポイントは 9 か所全て異なっていた。一方、未熟達指導者は通常速度とスロー速度動画で計 6 回の状況認知を行なっているが、両動画とも 3 回中 2 か所は通常速度動画とスロー速度動画で同じ技術ポイントを指摘していた。また、熟達指導者は計 9 回、未熟達指導者は計 6 回の状況認知を行なっているが、うち 3 か所で投手の投球技術のポイントについて正反対の指摘を行なっていた。

【考察】 通常速度動画とスロー速度動画において状況認知の数はいずれも熟達指導者が多かった。その際熟達指導者は投球フォームの良い点を、未熟達指導者は悪い点を多く指摘していた。また、熟達指導者と未熟達指導者は 1 年半にわたり、コーチと学生コーチという関係で投手についての意見交換を行なっていたが、それでも指摘した技術的ポイントについて、正反対の指摘が 3 か所でみられた。さらに、熟達指導者は通常速度動画とスロー速度動画で指摘している技術ポイントが全て異なっていた。このことは、熟達指導者が未熟達指導者とは違い、動画の特性をとらえた投手観察を行なっていることを示唆している。逆に、未熟達指導者はどのような動画であっても同じところを見て、同じことを感じている可能性がある。

【結論】 熟達指導者は、動画の特性を捉えた上で、投手の良い点を中心に未熟達指導者より多くの状況認知を行なっていた。また、日頃から意見交換を行なっているにもかかわらず、正反対の指摘を行なっている場面が複数あったことは、指導者育成の難しさを示唆している。

【文献】

1) 全日本大学野球連盟 (2019) 加盟校数および部員数 <http://www.jubf.net/info/plyernum.html>

(参照日 2020.8.13)

2) 朝日新聞 (2017) 未来へつなげ高校野球。3月8日朝刊 : 26